

2019 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

優しい魂が世界をより良い場所にする

（原文は英語）

イリヤ・ニキチエチエフ（21 歳）

ロシア・クルスク市

クルスク国立大学

私は物心ついたころから、優しさに取り囲まれてきました。私にとって「優しさ」とは、大げさな言葉ではなく他の人が私のためにしてくれた行為です。

私は生まれてこの方ずっと健康問題を抱えてきましたが、いつも母が支えてくれました。彼女の継続的な看護は無限の優しさと苦労の表れ以外の何ものでもありません。

また、私は多くの骨の手術を受けなくてはならず、整形外科センターで医師に囲まれて過ごしてきました。彼らは経験豊富で優しいだけでなく、その仕事はまさに英雄的と言えるものでした。学校に行けるようになると、今度は先生方からも愛と思いやりを感じました。自宅学習をしていたのですが、先生たちは私に知識だけでなく彼らの一部も与えてくれ、私が寂しい思いをしないよう勉強を面白くしようとしてくれていました。

時には学校で他の子たちと授業を受け、友だちと会うこともありました。彼らの優しさから、私は前に進み続けるための大きなエネルギーをいつももらっていました。

小学生の時に、アマチュア女優である女性が設立した、特別児童向けの演劇クラブに参加した時のことは一生忘れません。彼女は仕事が休みの日に私たちの小さなスタジオにやってきて、自分の演劇経験を共有してくれました。私たちを魔法の世界に導き、そこでは私たちは主人公になれたのです。そして何よりも、私たちを笑顔にしてくれました。

私は高成績で学校を卒業した後、大学へと進み外国語学部に入りました。そこで言語学を勉強して3年になります。大学に通い始めて最初の1年間、キャンパス内には私が楽に建物に入るためのスロープが一つもありませんでした。しかし学長は無関心なままではなく、建物のエントランスは間もなく改修されました。今は障がいを持つ生徒たちが、このスロープを使って大学の校舎に入り、学び、専門的技術を獲得する機会を得ています。私にとってこれは素晴らしく優しい行為でした。

大学で良き師に出会えたことは私にとってとても幸運なことでした。彼女は語学を学ぶ上で難しい部分で私をずいぶんと助けてくれ、私の研究や創作作業の指導もしてくれました。時間外勤務手当をもらえないにも関わらず、彼女は親切心からそうしてくれたのです。なぜなら、私に優れた翻訳者になって欲しいからです。私は彼女に大変感謝しています。自分の目標を達成し、優れた専門家になりたいと思っています。

みんなの優しい態度が、私も他の人に親切にしたいという気持ちを起こさせてくれました。私の両親、親戚、友だち、先生方など多くの人たちが私を導いてくれました。おかげで今や私も、人々の役に立つものを作る能力を身に付けました。そこで「自分にできることは何か」を考えました。それはもちろん、翻訳をすることです！ボランティア翻訳を必要としている、人の役に立ちそうなプロジェクトがないかインターネットで探したところ、「Rare Chromosome Disorder Support Group（希少染色体異常障害サポートグループ）」のロシア支部が提案している「Unique（ユニーク）」という取り組みを見つけました。社会的責任のある学生たちで構成されるチームが、希少染色体異常に関する医療小冊子や、疾患を持っている子どもたちのためにコミック本を英語からロシア語に翻訳するというものです。私もそれに参加することにしました。疾病を持つ子どもたちやその家族は、診断に関する情報を母国語で必要としており、自分の力の及ぶ範囲でそのような子どもたちの力になれることをうれしく思いました。この翻訳を通して、染色体異常障害を持つ人々が世界に向けて自分たちのことを発信する手助けをし、その家族をサポートし、必要な情報を提供していきたいと思っています。小冊子が出版されるのを見ると、自分の仕事は無駄ではなかったことが分かります。今年は合計 16 冊の小冊子とコミック本が出版されました。「ユニーク」に参加した全ての人が、困難な状況にある人々の生活をより希望と喜びに満ちたものにするために全力を尽くしました。

私はこれまでの人生で、多くの優しさと幸せを人からもらいました。しかしその恩を喜びとして返す方がはるかに楽しいと思うのです。喜びは人の心により強く響くからです。心の底からの優しさで共に輝きましょう。人々の心が明るいと世界全体がより優しくなるのですから。